

平成 30 年度第 2 回浦安市児童センター運営懇談会

- 会議資料 別紙参照
- 開催日時 平成 30 年 12 月 6 日（木）午後 6 時 30 分～8 時 30 分
- 開催場所 高洲公民館（エスレ高洲内） 2 階 研修室
- 参加者
  - （委員） 手塚委員 （浦安市小中学校校長会）
  - 坂野委員 （民間有識者 浦安子ども劇場）
  - 田中委員 （民間有識者 よみきかせサークル ルフラン ）
  - 岡田委員 （民生委員児童委員協議会）
  - 小神委員 （民生委員児童委員協議会）
  - 高倉委員 （青少年相談員連絡協議会）
  - 伊藤委員 （青少年相談員連絡協議会）
  - 小泉委員 （子ども会育成連絡協議会）
  - 菊池委員 （子ども会育成連絡協議会）
  - 三代川委員（健康こども部保育幼稚園課長）
  - 平林委員 （健康こども部青少年課長）
  - （事務局） 健康こども部児童センター 河野所長
  - 東野児童センター 泉澤・海老原・奥山・中里・吉清
  - 高洲児童センター 高梨・村松・飯沼

- 1 開式
- 2 児童センター所長挨拶
- 3 委嘱状交付
- 4 会長・副会長の選出
- 5 会長挨拶
- 6 議事
  - （1）平成 30 年度前期事業報告について
  - （2）平成 30 年度後期事業計画について
  - （3）その他
- 7 閉会

1 開式 事務局 高梨

2 河野児童センター長挨拶

先日の「あきまつり」は、大盛況のうちに終わり、今は「クリスマス会」に向けて準備をしているところである。ペットボトルツリーが楽しいクリスマスの雰囲気を出している。委員の皆様も見に来ていただきたい。

今後、東野と高洲の合同事業を予定している。

これから、前期の報告をするので、ご意見をいただきたい。

3 委嘱状交付

○ 自己紹介 委員・職員

4 会長・副会長選出

会長 手塚委員 (浦安市小中学校校長会)

副会長 三代川委員 (健康こども部保育幼稚園課長)

5 会長挨拶 手塚会長

子ども達が、放課後過ごす周りの三間(時間・空間・仲間)が変わってきている。子ども達の楽しい居場所つくりのため、この会を効果的に運営できるように委員の力を貸してほしい。

三代川委員 (健康こども部保育幼稚園課長)

平林委員 (健康こども部青少年課長) 退席

6 議事

(1) 平成 30 年度前期事業報告

1 東野児童センター事業報告 泉澤

- ・利用実績 (P5~P8) について
- ・子育て支援事業 (P9.10) について
- ・こども健全育成事業(P11.12)について
- ・地域貢献事業(P13.14)について

主な事業内容に説明

① ベーゴマ大会について 泉澤

団体戦と個人戦を行った。大人の参加を止めて、子どもだけで対戦するようにしたり、子ども達が楽しめるように工夫している。ベーゴマクラブの人達の見守りや励ましの中、盛り上がり対戦していた。勝った時の賞品は、師匠が加工したベーゴマがもらえるので、白熱した試合が続いた。

② スポーツ教室について 奥山

「6月にマット運動」「8月に跳び箱」の教室を小学生対象に開催した。「苦手を克服する」「もっと上達する」ことを目的に実施された。講師による力量に応じ段階を追い、意欲を引き出す丁寧な指導により、自信を感じている子ども達の姿が見られた。人気と需要のある企画なので、今後も継続していきたい。

③ 紙すき葉書、こねこね石鹸工作について 吉清

この事業は「浦安市環境学習」の一環として、環境保全課より講師が派遣され、職員が環境学習の趣旨を学び、子ども達に伝えていった。この事業を通して、子ども達は、リサイクルすることの大切さや面白さを知る機会となった。

④ あきまつり「お化け屋敷」について 海老原

設営から小道具作り、演出、お化けの変装まで、すべて職員の手作りで、高校生ボランティアにも協力してもらった。毎年恒例になっているこのイベントを継続させ、児童センターを盛り上げていきたい。

⑤ 図書室利用について 中里

子ども達の読んでいるのはほとんどが漫画で、児童書や図鑑は手にすることが少ない傾向である。近畿大学の研究成果「漫画で芽生えた好奇心を学問に」ということがニュースになり、これをセンターで応用できないものかと、今思案しているところである。漫画から、興味が広がり本へ移行していくように、子ども達の目に触れる場環境の工夫を考えている。

2 高洲児童センター事業報告 飯沼

- ・利用実績 (P16~P19) について
- ・子育て支援事業 (P20) について
- ・こども健全育成事業 (P21.22)について
- ・地域貢献事業(P23)について

主な事業説明

① 児童センターの窓で絵をかこう 村松

ロビーに面した窓があり、キットパスという画材で子ども達に色を塗ってもらった。チーバくんや児童センター利用カードのキャラクターをモチーフにしたことで、千葉県や児童センターを身近に感じてもらう機会となった。大作が出来上がり、子ども達は大満足であった。

② 紙コップタワーを作ろう 村松

夏休みに事業として、様々な年齢の子ども達が同じ空間、同じ遊びを通して楽しむことを目的として実施した。1000個の紙コップを用意して、友達と協力しながら自由に積み上げて遊んだ。真っ白でシンプルな素材がかえって芸術的な作品となり、出来上がった時の満足感につながった。「普段できないこと」「家庭ではできないこと」を楽しむ機会となった。

③ 浴衣着付け教室 高梨

高洲公民館の和室で、3回コースで行った。まずは講師の方に着せてもらい、自分で着てみた。参加をしてくれた小学生はとても意欲的で、家でも何度も練習をして2回目では、一人で着ることができた。講師の方が日本舞踊の師範だったことから、日本舞踊の作法なども学び、日本舞踊も体験した。

初めての体験だったが、子ども達はすぐマスターし、楽しんで踊っていた。

#### ◎質疑応答

- 会長 映像と現物があり、わかりやすい事業報告だった。  
各センターより報告があった内容について質問はないか。
- 委員 図書室の環境への試みはいいことだ。大人も児童センターで遊ぶ日があってもよいと思う。子どもとのかかわりをもっとわかるようになる。  
紙コップタワーは、インスタ映えするので、今の時代にあっている。
- 委員 高洲の主催事業「にこにこスマイル」を11:20~11:50に設定している意図はあるのか。
- 事務局 こんぺいとうサロンのわらべ歌や手遊び等の時間に配慮して重ならないようにしている。
- 委員 センターが遠くて利用できない人を呼び込むことは何かしているのか。
- 所長 通常利用は近隣が多いが、イベントは各方面からも来館している。おさんぽバスは、無料になったが、来館につながらなかった。もっと、遠方より来てほしいと思う。
- 委員 その思いをどう形に表すのか。
- 所長 お知らせ、ホームページで周知しているが、さらに検討していきたい。

#### (2) 平成30年度後期事業計画

- 1 東野児童センター事業計画 (P15)
- 2 高洲児童センター事業計画 (P24)

- 会長 30年度後期の計画について意見はないか。
- 委員 おもちゃの病院で仕掛け絵本は直すことができるのか、
- 所長 今まで、その様な案件はなかったが、器用に直してくれる方々なので、持ってきてはどうか。
- 委員 「お父さんも一緒に赤ちゃんサロン」のようにお父さんを巻き込んで参加できるものが沢山あるといいと思う。
- 所長 お父さんも来館するようになり、えくぼルームでは、お父さんの育児している実態を見ることがある。
- 委員 センターの活動が活発で、学校と違う所の交流の場になっている。母親が孤立しないように多くの親子の橋渡しとして、センターの様な場があるといいと思う。
- 委員 事業の講師はどのように見つけているのか、謝礼を支払っているのか。
- 事務局 公民館で講師をしている人を紹介してもらうこともある。活動を広めていくため

にボランティアとしてやっている人もいるので、有償と無償の人がいる。  
会長 様々な横のつながりができて望ましい方向に向かっている。

(3) その他 事務局

東京の児童館で人数制限の関係で入館を断られて、そのことを SNS に載せたことから話題になり、賛否両論の声が上がった。

浦安市の児童センターでは、特にこの様なルールは設けていない。幼い子を連れてくる親には、職員が補助をするなりして配慮している。

会長 このことについて委員の意見はどうか。

委員 最低限のルールは必要だし、特例を認めると次から受け入れざるをえない。ルールを守ってもらうことを徹底させればいい。

委員 代替案を紹介するなど、施設間の横のつながりや職員間の共通理解が必要である。浦安の職員は工夫して対応している。

委員 高洲では、2月に小学校新1年生親子参加でセンターの体験事業がある。親がセンターを知り、理解につながるいい事業だと思う。

委員 利用者数が地域によって違うが、例えば美浜地域は元々子どもが少ない。園児数や学校の在籍数に対して利用者数の比をだしてみてもどうか。

会長 検討してみてもどうだろうか。

委員 共働きの家庭が増えているので、学童とセンターの交流が図られるといいと思う。

会長 コラボレーションできればいい。今後検討していただきたい。

委員 P25の「来館者数推移」で東野は27年度以降下がっている原因は何か。

所長 非常勤職員の雇用ができなかったのが、事業が少なくなってしまった。職員不足が来館者減少の原因である。29年度より放課後異年齢交流促進事業が始まった。子どもの数が減少してきており、これ以上増えることは少ないが、事業をすれば来館者は増えるので、今後も対策を考え対応していきたいと考えている。

7 閉会